



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月5日

上場会社名 ヒビノ株式会社 上場取引所 東
コード番号 2469 URL <https://www.hibino.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 日比野 晃久
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員ヒビノGMC経営企画グループ長 (氏名) 大関 靖 TEL 03-3740-4391
四半期報告書提出予定日 2024年2月6日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	34,149	22.2	1,784	—	1,894	893.2	967	—
2023年3月期第3四半期	27,949	△13.3	△137	—	190	△90.9	△55	—

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 1,086百万円 (852.7%) 2023年3月期第3四半期 114百万円 (△92.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	97.47	—
2023年3月期第3四半期	△5.62	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	38,547	10,231	25.4
2023年3月期	36,864	9,482	24.7

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 9,782百万円 2023年3月期 9,118百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
2024年3月期	—	15.00	—		
2024年3月期（予想）				15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	49,500	18.1	2,300	87.1	2,400	71.4	1,250	105.7	125.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社（社名）、除外 1社（社名） Hibino Asia Pacific (Shanghai) Limited

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	10,265,480株	2023年3月期	10,265,480株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	342,721株	2023年3月期	342,687株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	9,922,792株	2023年3月期3Q	9,891,738株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症に変更されたことで経済社会活動の正常化が一段と進む中、緩やかな回復が続くことが期待されます。ただし、海外景気の下振れリスクをはじめ、物価上昇、不安定な国際情勢、金融資本市場の変動等の影響が懸念され、先行きが見通せない状況にあります。

このような状況のもと当社グループは、グループビジョン「世界のヒビノへ」の実現に向け、中期経営計画「ビジョン2025」（2023年3月期～2026年3月期）に取り組んでいます。本中期経営計画では、中期経営方針として「持続的成長を可能とする経営体質の構築」「健全経営の確立」の2つを掲げています。「ハニカム型経営」と「イノベーション」を成長戦略の柱とし、M&Aも活用して新領域を開拓するとともに、適正な利益、財務の安定、人的資本の向上の好循環サイクルを確立していきます。

この方針に基づき、当第3四半期には、ICTを活用した映像ソリューションを展開する株式会社エヌジーシーを連結子会社化しました。また、アメリカの連結子会社であるTLS PRODUCTIONS, INC. について、グループ経営の最適化の観点から解散及び清算することといたしました。

当第3四半期連結累計期間は、大規模な集客が可能となったコンサート・イベント市場が急速なペースで復活、拡大し、コンサート・イベントサービス事業が好調に推移しました。販売施工事業、建築音響施工事業においても、顧客の設備投資意欲の回復や都市再開発計画の進展等を背景に大型案件が増加し、すべてのセグメントで前年同四半期を上回る売上高及び利益となりました。

これらの結果、売上高34,149百万円（前年同四半期比22.2%増）、営業利益1,784百万円（前年同四半期は営業損失137百万円）、経常利益1,894百万円（前年同四半期比893.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益967百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失55百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

[販売施工事業]

販売施工事業は、主軸である業務用音響・映像機器等の輸入販売及び施工において、顧客の設備投資が活発化しており、音楽ホールや大学施設、再開発ビル、放送局、スタジオ、映像ネットワーク会社等の大型案件に恵まれました。利益面につきましては、円安の進行等に伴う商品仕入原価の上昇を受けて前連結会計年度より段階的に実施している販売価格改定の効果により、収益性が向上しています。

LEDディスプレイ・システム販売については、都心のエンターテインメント施設、企業のミュージアム及び再開発ビル向けの大型案件を手掛け、好調に推移しました。

韓国市場は、物価上昇等による景気減速傾向が続く中、直販ビジネスの強化によりシステム案件が増加し、事業規模の拡大が進みました。

これらの結果、売上高15,755百万円（前年同四半期比23.9%増）、セグメント利益121百万円（前年同四半期はセグメント損失518百万円）となりました。

[建築音響施工事業]

建築音響施工事業は、放送局の建替やスタジオの新設、都市再開発に伴う文化・交流施設の新築計画が中長期的に控えていることから、良好な事業環境にあります。いくつかの大型案件で着工や工程の遅れが発生し、売上の計上時期が第4四半期または来期にスライドしましたが、再開発関連や大学施設等の建築音響案件をはじめ、メディア関連の大規模プロジェクトが進捗し、売上高及び利益は前年同四半期を上回りました。また、前年同四半期は非連結子会社であった株式会社サンオーを連結化したことによる業績寄与もありました。

これらの結果、売上高5,732百万円（前年同四半期比21.8%増）、セグメント利益170百万円（前年同四半期はセグメント損失88百万円）となりました。

[コンサート・イベントサービス事業]

コンサート・イベントサービス事業は、主力のコンサート市場が活況を呈しており、ドーム・アリーナクラスの全国ツアー案件等が集中し、好調に推移しました。企業イベント、コンベンション、スポーツイベントの市場においてもイベント規模が拡大し、ステージ演出への投資が増加しています。特に、東京モーターショーから名称を変え4年ぶりの開催となった「ジャパンモビリティショー」では、過去の東京モーターショーを超える最大規模の受注額となりました。さらに、「G7広島サミット」や「世界水泳選手権2023福岡大会」等の国際行事が開催され、これらの特需案件を取り込んだことも寄与し、グループ全体の売上高及び利益拡大をけん引しました。バーチャルプロダクションへの取り組みについては、CMやドラマ等の制作現場への導入が一層進み、安定的に売上を確保しています。

これらの結果、売上高12,662百万円（前年同四半期比20.2%増）、セグメント利益2,497百万円（前年同四半期比92.9%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は38,547百万円となり、前連結会計年度末と比べて1,683百万円増加しました。これは受取手形、売掛金及び契約資産が減少したものの、機械装置及び運搬具並びに現金及び預金が増加したことが主な要因であります。

負債合計は28,316百万円となり、前連結会計年度末と比べて934百万円増加しました。これは流動負債のその他（主に前受金）が増加したことが主な要因であります。

純資産合計は10,231百万円となり、前連結会計年度末と比べて749百万円増加しました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことが主な要因であります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績及び足元の状況を踏まえ、2023年11月6日に公表しました予想数値を修正し、売上高49,500百万円（前連結会計年度比18.1%増）、営業利益2,300百万円（同87.1%増）、経常利益2,400百万円（同71.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益1,250百万円（同105.7%増）といたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,754,856	3,852,841
受取手形、売掛金及び契約資産	11,502,238	9,924,460
商品及び製品	6,174,492	7,234,678
仕掛品	845,845	1,239,914
原材料及び貯蔵品	143,646	181,686
その他	1,460,952	1,235,161
貸倒引当金	△38,451	△40,648
流動資産合計	22,843,581	23,628,095
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,737,274	2,844,279
減価償却累計額	△1,323,179	△1,393,795
建物及び構築物 (純額)	1,414,094	1,450,483
機械装置及び運搬具	16,412,823	17,745,018
減価償却累計額	△12,439,836	△13,046,582
機械装置及び運搬具 (純額)	3,972,986	4,698,436
工具、器具及び備品	2,434,723	2,895,023
減価償却累計額	△1,931,698	△2,309,380
工具、器具及び備品 (純額)	503,025	585,642
リース資産	1,542,779	1,447,410
減価償却累計額	△917,373	△927,284
リース資産 (純額)	625,405	520,126
その他	1,722,730	1,746,712
有形固定資産合計	8,238,243	9,001,400
無形固定資産		
のれん	1,703,079	1,949,527
その他	451,337	318,013
無形固定資産合計	2,154,417	2,267,540
投資その他の資産		
その他	3,667,991	3,658,726
貸倒引当金	△39,713	△7,941
投資その他の資産合計	3,628,278	3,650,784
固定資産合計	14,020,939	14,919,725
資産合計	36,864,520	38,547,820

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,627,179	3,828,822
短期借入金	6,725,036	4,953,000
1年内返済予定の長期借入金	4,492,859	4,270,322
リース債務	307,862	246,087
資産除去債務	—	7,414
未払法人税等	206,019	285,754
賞与引当金	776,074	399,893
その他	2,510,942	4,233,193
流動負債合計	18,645,972	18,224,487
固定負債		
長期借入金	5,979,881	7,326,920
リース債務	332,044	291,054
退職給付に係る負債	2,165,613	2,250,508
資産除去債務	163,743	164,460
その他	94,914	58,743
固定負債合計	8,736,197	10,091,686
負債合計	27,382,169	28,316,173
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,748,655	1,748,655
資本剰余金	2,005,583	2,005,583
利益剰余金	5,176,709	5,846,216
自己株式	△241,432	△241,501
株主資本合計	8,689,516	9,358,953
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	40,670	57,783
繰延ヘッジ損益	△5,522	△2,049
為替換算調整勘定	227,555	212,434
退職給付に係る調整累計額	165,879	155,394
その他の包括利益累計額合計	428,583	423,562
非支配株主持分	364,251	449,130
純資産合計	9,482,350	10,231,646
負債純資産合計	36,864,520	38,547,820

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	27,949,443	34,149,802
売上原価	18,571,911	21,739,899
売上総利益	9,377,532	12,409,902
販売費及び一般管理費	9,515,439	10,625,602
営業利益又は営業損失(△)	△137,907	1,784,300
営業外収益		
受取利息	9,196	4,379
受取配当金	11,536	15,266
為替差益	94,922	163,755
保険解約返戻金	124,366	5,891
助成金収入	50,073	3,420
その他	156,747	75,306
営業外収益合計	446,842	268,019
営業外費用		
支払利息	84,395	114,857
支払手数料	12,529	9,343
その他	21,241	33,503
営業外費用合計	118,167	157,704
経常利益	190,766	1,894,615
特別利益		
為替換算調整勘定取崩益	—	98,456
特別利益合計	—	98,456
特別損失		
関係会社整理損	2,636	185,606
和解金	59,924	—
特別損失合計	62,561	185,606
税金等調整前四半期純利益	128,205	1,807,464
法人税等	104,238	741,212
四半期純利益	23,967	1,066,251
非支配株主に帰属する四半期純利益	79,545	99,061
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△55,578	967,190

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	23,967	1,066,251
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,764	17,112
繰延ヘッジ損益	△9,767	3,473
為替換算調整勘定	110,832	10,333
退職給付に係る調整額	△3,204	△10,484
その他の包括利益合計	90,096	20,434
四半期包括利益	114,063	1,086,686
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	21,860	962,169
非支配株主に係る四半期包括利益	92,203	124,516

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	販売施工事業	建築音響 施工事業	コンサート ・イベント サービス 事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	12,711,992	4,706,877	10,530,573	27,949,443	—	27,949,443
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	71,967	13,190	57,003	142,161	△142,161	—
計	12,783,959	4,720,068	10,587,577	28,091,605	△142,161	27,949,443
セグメント利益又 は損失(△)	△518,108	△88,220	1,295,152	688,823	△826,731	△137,907

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△826,731千円には、セグメント間取引消去184,043千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,010,775千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「販売施工事業」セグメントにおいて、当社は、2022年12月1日(みなし取得日2022年12月31日)に、株式会社Cerevoの株式を取得し、連結子会社化いたしました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては456,158千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	販売施工事業	建築音響 施工事業	コンサート ・イベント サービス 事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	15,755,597	5,732,130	12,662,074	34,149,802	—	34,149,802
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	66,887	4,049	29,722	100,659	△100,659	—
計	15,822,485	5,736,179	12,691,796	34,250,461	△100,659	34,149,802
セグメント利益	121,403	170,697	2,497,900	2,790,001	△1,005,701	1,784,300

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,005,701千円には、セグメント間取引消去166,494千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,172,195千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「販売施工事業」セグメントにおいて、当社は、2023年12月1日に、株式会社エヌジーシーの株式を取得し、連結子会社化いたしました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては453,253千円であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。